

V 歩く博物館事業

1 探索会

(1) 市主催探索会

第1回（巻末資料vi）

日 時：平成 26 年 9 月 24 日（水）

場 所：上井出・白糸地区

「富士の巻狩コース」

講 師：文化課社会教育指導員

参加者：38 名



写真 40 探索会（上井出・白糸地区）

第2回（巻末資料vii）

日 時：平成 26 年 12 月 6 日（土）

場 所：長貫・内房地区

「埋蔵文化財センター見学と周辺の文化財を訪ねるコース」

講 師：文化課学芸員

参加者：30 名

VI その他の事業

1 問合せ対応

富士宮市の歴史や民俗などに関する、市内外からの問合せに対応した。要請に応じ、講座等の説明・案内を行った。

2 小中学校総合学習への対応

市内小中学校の総合学習（富士山学習）の一環として、児童・生徒の訪問・質問に対応した。また、各学校を訪問し講話を行った。

3 講師派遣

(1) 富士山まちづくり出前講座

富士山まちづくり出前講座は、市民の自主学習の支援や市政の広報のために設けられたものである。平成 26 年度も文化課職員が講師となり、小学校や公民館に出向き、「ふるさとの歴史を学ぶ」と題して講座を開催した。

表4 富士山まちづくり出前講座実施一覧

実施日	団体	場所	対象	人数	内容
平成26年5月28日	大富士小学校	大富士小学校	児童	174	富士宮市の歴史
平成26年7月4日	富士宮第一中学校	富士宮第一中学校	生徒	81	富士宮市の歴史
平成26年10月13日	人穴小学校	人穴小学校	児童	16	西富士開拓の歴史

(2) その他講座への講師派遣

世界遺産ボランティアガイド養成講座（富士山世界遺産課）・観光ボランティア養成講座（富士宮市観光協会）の講師や、世界遺産構成資産の説明等を行った。

表5 その他講座への講師派遣

実施日	講座名等	人数	内容
平成26年5月9日	根南女性学級総会	80	世界遺産構成資産の説明
平成26年5月12日	東部副市長会（フィールドワーク）	20	世界遺産構成資産巡り
平成26年5月13日	静岡県神社総代会研修会	30	世界遺産登録に見る富士山信仰
平成26年6月20日	Active Academy 研究会設立総会	70	世界遺産「富士山」に育まれた地域と文化
平成26年6月28日	富士宮市郷土史同好会総会	45	本郷丹後守泰固と長屋門
平成26年7月15日	ひめしゃらの会研修会	9	世界遺産「富士山」信仰と富士山に育まれた地域・文化
平成26年7月23日	日本水道協会静岡県支部研修会	58	世界遺産のまち富士宮「富士山信仰と芸術の源泉」
平成26年7月26日	たかおか歴史発見（フィールドワーク）	12	鷹岡の曾我兄弟伝承地と石造物を訪ねる
平成26年8月6日	親と子の施設めぐり	32	富士山世界文化遺産コースめぐり
平成26年8月12日	富士山世界遺産ボランティアガイド研修	30	山宮浅間神社・浅間大社
平成26年8月20日	富士山世界遺産ボランティアガイド研修	27	村山浅間神社
平成26年8月29日	郷土史同好会フィールドワーク	28	歴史の館・埋蔵文化財センター・平家落人の里を訪ねて
平成26年9月21日	健康歴史ウォーク	40	大岩発 栗倉・村山健康歴史ウォーク
平成26年10月8日	三嶋暦の会研究会	23	高砂酒造下山仏・吉澤家煉瓦蔵・浅間大社・長屋門
平成26年10月12日	山宮一区史跡ハイキング	53	富士の巻狩・曾我兄弟史跡を訪ねる
平成26年11月11日	西遠地区・富士宮市行政相談委員交流会	18	富士山に育まれた文化
平成26年11月15日	武田家旧恩会視察研修	18	武田家よりの宝物類見学
平成26年11月20日	吉田町文化財保護審議会視察研修	8	浅間大社・長屋門歴史の館・村山浅間神社を訪ねる
平成26年11月23日	武蔵野文化協会視察研修	16	世界遺産富士山構成資産めぐり（～24日まで）
平成26年12月2日	富士吉田市学校経営研究会研修会	11	世界遺産富士山構成資産めぐり
平成26年12月3日	伊東市自然歴史案内人会（フィールドワーク）	43	曾我兄弟関連史跡を訪ねる
平成26年12月14日	静岡県民俗学会富士山西麓めぐり	12	霊峰富士・信仰の源泉を訪ねて
平成27年1月20日	富士山世界遺産ボランティアガイド研修	29	年表と図説でみる富士宮の歴史と伝説
平成27年1月28日	観光ボランティア養成講座	18	山宮浅間神社・村山浅間神社・人穴富士講遺跡
平成27年1月29日	富士宮市文化協会新春のつどい	76	世界遺産富士山・その芸術の源泉を語る
平成27年2月12日	観光ボランティア養成講座	19	山宮浅間神社・村山浅間神社現地研修
平成27年2月19日	構成資産視察研修	28	世界遺産のまちづくりに関する視察
平成27年2月25日	観光ボランティア養成講座	15	人穴富士講遺跡・白糸ノ滝・上井出・狩宿現地研修
平成27年3月7日	富士市商工会観光部会フィールドワーク	13	曾我兄弟と龍巖めぐり
平成27年3月14日	富士市商工会観光部会フィールドワーク	21	双体道祖神を巡る

埋蔵文化財センターについて

富士宮市埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財の調査・整理・保管を目的として、平成 26 年に開館しました。

ここでは、発掘調査で出土した遺物の整理作業を行っています。整理作業が終了した後は収蔵庫に保管されるほか、一部は埋蔵文化財センター展示室での展示や市民向けの講座などに活用されます。また、展示室では、国指定史跡の大鹿窪遺跡や史跡「富士山」などをはじめとする富士宮市内の遺跡・史跡の紹介をしています。



埋蔵文化財センター外観

ご利用案内

所在地 〒419-0315
静岡県富士宮市長貫 747-1

電話 0544-65-5151

FAX 0544-65-2933

E-mail maibun_center@city.fujinomiya.lg.jp

展示室

開館日 平日
* 祝日及び年末年始(12月28日～1月3日)は休館

開館時間 9:00～17:00 (入館は 16:30 まで)
* 埋蔵文化財センターの業務時間は平日 8:30～17:15

見学料 無料

駐車場 あり(無料)

交通案内



富士宮市埋蔵文化財センター



● 展示室

市内の遺跡を紹介しています。

主な展示：大鹿窪遺跡、史跡「富士山」(富士山本宮・浅間大社、山宮浅間神社、村山浅間神社・大日堂、人穴富士講遺跡)、元富士大宮司館跡(大宮城跡)など



● 収蔵庫

整理作業が終了した遺物を保管しています。



● 作業室

発掘調査で出土した遺物の洗浄・注記・接合作業や、出土遺物・検出遺構の図化作業などの整理作業を行っています。

館内図



展示室案内図



富士宮市内の主な遺跡

■ 国指定史跡 大鹿窪遺跡

縄文時代草創期の遺跡であり、10 軒以上の竪穴住居跡と多数の土器・石器が出土した。日本最古級の集落跡とされる。

所在地：静岡県富士宮市大鹿窪

指定年月日：平成 20 年 3 月 28 日

■ 国指定史跡 千居遺跡

縄文時代中期の遺跡で、集落跡と大規模な配石遺構などが発見された。

所在地：静岡県富士宮市上条

指定年月日：昭和 50 年 6 月 26 日

■ 国指定史跡「富士山」

富士山の信仰は、古代の遙拝、修験者による登拝から、戦国時代には一般信者の信仰の広がりをみせた。日本最高峰の火山である富士山は、日本を代表する信仰の山であり、山体とともに関連する登山道・神社等が史跡に指定された。富士宮市内では、富士山本宮浅間大社、山宮浅間神社、村山浅間神社・大日堂、人穴富士講遺跡、大宮・村山口登山道跡が含まれている。

所在地：静岡県富士宮市ほか 5 市町村

指定年月日：平成 23 年 2 月 7 日

「盆行事」展

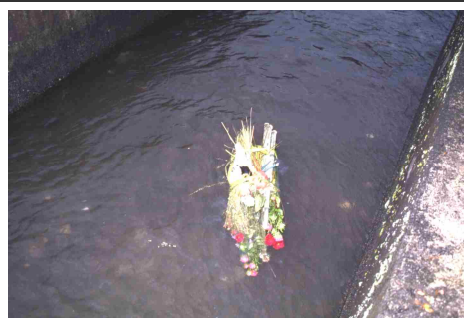
「お盆」は、仏事^{うらぼんえ}「盂蘭盆会」の略とされ、先祖の霊を迎える行事とされます。一方で、「盆と正月が一緒に来たよ」という言葉からは、盆が正月と並ぶ年中行事の中心的存在であり、ハレの日の代表であったことがうかがえます。お盆は、仏教思想と様々な民間信仰・民俗行事が融合したものであり、各地で多彩な行事が行われてきました。ここでは、富士川流域の盆行事など、市内の盆行事を紹介します。

1 盆行事とは

盆の始まり・盆の終わり

富士宮市内では、お盆は8月13日から15日(又は16日)とされるが、本来は7月であり、月遅れで行われている。古くは1日に始まるとされ、この日に「盆道作り」(墓場や道の掃除)を行い祖霊を迎える準備をした。江戸時代の地誌「駿国雑誌」には、1日から迎え火を焚くとある。また、7日(七夕)も盆に関係する行事とされ、この日に盆道作りをする場所もあった。

13日夜に迎え火を焚いて祖霊(精霊)を迎えるが、芝川地域では墓地から手を引いて祖霊を連れて帰る家もあった。また、精霊が迷わないように道行を照らす明かりだとしてヒャクハッタイや投げ松明・振り松明が盆の間毎晩行われた。盆が終わると、送り火を焚いて祖霊を帰し、精霊棚と屋外に祀られた「無縁さん」をひとまとめにして川に流す。川のないところでは辻に置いて来る。これを精霊送り(送り盆)といい、富士川流域のカワカンジョウもこのひとつだと考えられる。



送り盆(上柚野)

盆の火祭り

盆には火を焚く行事(火祭り)が多い。迎え火を焚いて精霊を迎え、火を焚いて送る。盆灯籠を飾り、新盆家は白提灯を下げる。富士川流域では投げ松明やカワカンジョウなど独特の火祭りが行われる。盆の火祭りは、各家(イエ)で行うだけでなく、集落(ムラ)としても大規模に行う。

火は、神霊を招く目印やその依り代とされ、またケガレを焼き払うものとされる。投げ松明や新盆家の白提灯は、高い場所で火を灯すことで神霊(祖霊)を招く意味があると考えられる。また、カワカンジョウや投げ松明は、ムラに災いをもたらす存在とされた横死者(水難者)を送る(祓う)ためにムラとして行う特別な火祭りだと考えられる。



カワカンジョウに火をつけて流す
(内房 尾崎)

盆のにぎわい

各家では帰省客や訪問客を迎え、ムラでは盆踊りや川供養に人が集まるなど、盆には人々が集まるが多い。かつては女の子が集まり屋外にかまどを作って料理をして食べる「盆がま」や、嫁いだ娘が「盆粉」(小麦粉)を手土産に帰省するので親がうどんを打ってごちそうする「盆ヨビ(イキボン)」が盛んに行われた。また、親類や世話になった人へ挨拶に行ったり、贈り物をしたりする「盆礼」も盛んに行われた。この時期の贈答の習慣は、現在でも「お中元」として行われている。

2 イエの盆

盆棚

盆棚は、お盆の間、位牌や供物などを飾り、先祖の霊を迎えるために用意される。「精霊棚」や「霊棚」ともいわれる。盆棚作りは13日に行われる。幕末期、大宮町の造酒屋主人が記した『袖日記』には、7月13日に「霊棚(魂棚)」を作り、花を供える様子が記されている。

市内では仏壇の前に設える。盆棚には精霊の乗り物として胡瓜の馬や茄子の牛を作って飾り、盆花や畑で採れた作物を供える。寺院でもらい受けた掛軸を飾る家もある。盆棚は、4本の竹を脚としその上に割竹を並べたものを作る。また、2本の竹を柱にして横木(または紐)を渡したものを飾る家もある。柱の途中に穴をあけて盆花(オミナヘシ)を生け、横木にとうもろこしや人参等畑で採れたものや稲穂、青柿、栗などを掛ける。下には机等を置いて南瓜やさつま芋等を並べる。



盆棚(栗倉)

迎え火・送り火

迎え盆(13日)と送り盆(15日又は16日)に迎え火・送り火を焚く習俗は全国的に行われ、オガラ(皮をはいだ麻の茎)やワラなど地域によって様々なものが用いられる。市内ではタイマツ(細い薪)を焚く。江戸時代の地誌「駿国雑誌」には、駿府の送り火の様子として「真木一束を積み火を放ちて焚く」とあり、古くから薪が用いられてきたと考えられる。

迎え火・送り火は、精霊が迷わないように道行を照らす明かりになる、帰る家の目印になるとされる。盆提灯やヒャクハッタイ、投げ松明、振り松明も同様の意味合いを持つものとされる。かつて北山地区で行われていた振り松明は、「精霊が迷わないように」迎え盆から送り盆の間毎晩、火のついた麦カラの束を振り回して集落を回ったという。投げ松明も「精霊が迷わないように」毎晩行われていたというが、現在は送り盆の夜にのみ行われている。



燃える投げ松明(長貴 上長貴)

新盆

亡くなって初めての盆を「新盆」と言い(地域では異なるが、この地域では一年間)、祀る死者を「新仏」・「新精霊」などと言う。新盆には、盆提灯や普段より立派な盆棚など特別な祭具が用意される。これは、新仏はまだ「ご先祖様」(祖霊)になりきれていない存在であり、無縁仏のように荒々しい(「新」＝「荒」)存在なので特に丁重にまつる必要があるためとされる。

カワカンジョウもまた新仏をまつるためのものだと考えられる。内房 尾崎のカワカンジョウは新盆家の盆提灯を飾って完成し、富士市天間では新仏の数だけカワカンジョウが作られた。カワカンジョウは、水難者(＝無縁仏)とともに新仏を送る祭具だといえる。



新盆家の提灯を飾ったカワカンジョウ
(内房 尾崎)

3 ムラの盆

投げ松明

富士川流域では、柱の先に漏斗状の物を付け、火の点いた松明等を投げ入れて点火する「投げ松明」が行われる。県内では、大井川流域や中部の沿岸部で「アゲドウロウ」や「トーロン」として同様の行事が行われている。また、近畿や九州などでも類似の行事が見られる。

富士川流域の投げ松明は、水難者供養の川供養として行われる。この火は精霊の道先を照らす明かりとされ、かつては盆の間毎晩行われた。また、かつては子供たちが中心となって投げ松明の作成から実施までを行った場所も多い。「駿国雑誌」には沼久保村(現市内沼久保)の投げ松明の様子が記されており、江戸時代後期には投げ松明が行われていたことが分かる。



投げ松明(富士市木島)

ヒャクハツタイ

盆の迎え火や送り火として108個の火を燃やす習俗は日本各地で見られる。富士川流域では水難者供養の川供養として行われ、「ヒャクハツタイ」(タイは松明の意)と呼ばれる。現在は空き缶に入れた灯油や提灯などに火を灯す集落が多いが、山梨県南部町では雑木や身延山から貰い受けた卒塔婆を大きな山に積み上げて大規模な火を焚いている。

江戸時代の地誌「駿国雑誌」には、沼久保の「百八の供養」が記されている。これは、富士川の水難者供養のため、河原に108本の杭を打って白い提灯を掛け、その元で男性が歌い踊るものだという。現在、沼久保では川供養(夏祭り)の会場に白い灯籠を吊るし火を灯している。



ヒャクハツタイ(沼久保)

カワカンジョウ

富士川流域では、竹と麦カラで作った作り物「カワカンジョウ」・「カワガンジー」(川灌頂の意か)に火をつけて川に流すことが行われている。これは精霊送りの精霊舟の一種と考えられる。精霊舟を川や海に流す習俗は各地に見られ、狩野川流域などでも類似の行事が行われている。

富士川流域では水難者供養の川供養として行われる。「駿国雑誌」には、水難者供養の「川灌頂」が記されており、江戸時代後期には行われていたことがわかる。カワカンジョウは、竹を田型に組んで麦カラを巻き、上に松明を立てた形が多い。送り盆の夜、これに火をつけて川に流すのだが、かつては燃えるカワカンジョウに乗ったり、付いて泳いだりして下流まで送ったという。また、上流から幾つものカワカンジョウが燃えながらゆらゆらと流れて来たという。また、カワカンジョウとともにサンダワラを流す集落もあった。これはサンダワラ(俵のふた)に供物を乗せて流すもので、施餓鬼供養の意味がある。



流されるカワカンジョウ
(富士市北松野 大北)

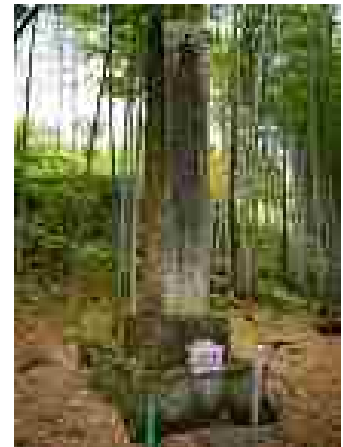
富士川流域盆行事一覧

地域名	投	力	サ	特記	地域名	投	力	サ
富士宮市内野		▲			身延町相又	○		
〃 大久保		▲	■		〃 清子	○		
〃 上稲子	○				〃 大島	○		
〃 長貫上長貫	●	△			南部町	●		
〃 〃 川合	○	△	□	投げ松明：昔は橋場・川合・楠金・砂原合同。カワカンジョウ・サンダワラ：S 30 代半ばまで。現在は妙興寺で会式	〃 佐野	○		□
〃 〃 橋場	○	▲	□	投：昔は橋場・川合・楠金・砂原合同	〃 内船	○		□
〃 〃 楠金	○			〃	〃 寄畑	○		
〃 羽鮒砂原	○			〃	〃 井出	○		
〃 〃 古田		▲	■	戦前は各集落→S 30 代半ばからカワカンジョウを下羽鮒区で実施	〃 十島	●		
〃 〃 月代		▲	■		〃 中野	○		
〃 〃 朧島		▲	■		〃 本郷	○		
〃 内房橋上	○	△		投げ松明・カワカンジョウ：S 40 代半ばまで	〃 南部	○		
〃 〃 尾崎	●	▲		投：S 57 復活	〃 成島	○		□
〃 〃 相沼	○			S 30 頃まで	〃 楮根	○		
〃 〃 落合	○			S 30 頃まで	〃 富士	○		
〃 〃 仲	○				〃 西行	○	△	
〃 〃 廻沢	○				富士市北松野大北	○	▲	
〃 沼久保	●	△			〃 南松野足ヶ久保	○		
凡例) 投げ松明	○	かつて実施	●	H25 現在実施	〃 木島室野	○		
カワカンジョウ	△	〃	▲	〃	〃 木島	●		
サンダワラ	□	〃	■	〃	〃 松岡水神	○		
					〃 岩淵坂下	○		
					〃 天間		△	

富士川と水難

かつて富士川は多くの川舟が行き交い、人や物を運ぶ流通の大動脈であった。しかし水量が多く流れが速いうえに難所も数多くあったため、水難事故が多発した。難所のひとつであった釜口峡には、江戸時代、水難者供養のために水神山本立寺が建てられた。また、釜口峡周辺をはじめとする流域には、今も水難者の供養碑や墓が残されている。

「駿国雑誌」には、水難者供養のための「川施餓鬼(川灌頂)」として、盆の間、沼久保村でカワカンジョウやヒャクハツタイが行われていたとある。流域の村々には、かつては水難者が流れ着くことも多く、村としてその供養を行ったものと考えられる。富士川流域の集落では、現在も川供養としてカワカンジョウや投げ松明が行われている。



水難供養碑(釜口峡)

盆行事展

期 間：平成26年7月12日～平成26年11月9日

場 所：富士宮市立郷土資料館（富士宮市宮町14-2 市民文化会館1階）

問合せ先：富士宮市教育委員会 文化課（埋蔵文化財センター）

TEL)0544-65-5151 FAX)0544-65-2933

「盆行事」展

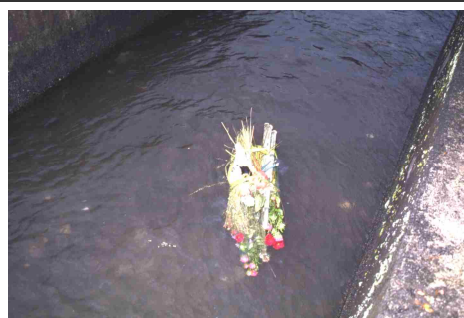
「お盆」は、仏事^{うらぼんえ}「盂蘭盆会」の略とされ、先祖の霊を迎える行事とされます。一方で、「盆と正月が一緒に来たよ」という言葉からは、盆が正月と並ぶ年中行事の中心的存在であり、ハレの日の代表であったことがうかがえます。お盆は、仏教思想と様々な民間信仰・民俗行事が融合したものであり、各地で多彩な行事が行われてきました。ここでは、富士川流域の盆行事など、市内の盆行事を紹介します。

1 盆行事とは

盆の始まり・盆の終わり

富士宮市内では、お盆は8月13日から15日(又は16日)とされるが、本来は7月であり、月遅れで行われている。古くは1日に始まるとされ、この日に「盆道作り」(墓場や道の掃除)を行い祖霊を迎える準備をした。江戸時代の地誌「駿国雑誌」には、1日から迎え火を焚くとある。また、7日(七夕)も盆に関係する行事とされ、この日に盆道作りをする場所もあった。

13日夜に迎え火を焚いて祖霊(精霊)を迎えるが、芝川地域では墓地から手を引いて祖霊を連れて帰る家もあった。また、精霊が迷わないように道行を照らす明かりだとしてヒャクハッタイや投げ松明・振り松明が盆の間毎晩行われた。盆が終わると、送り火を焚いて祖霊を帰し、精霊棚と屋外に祀られた「無縁さん」をひとまとめにして川に流す。川のないところでは辻に置いて来る。これを精霊送り(送り盆)といい、富士川流域のカワカンジョウもこのひとつだと考えられる。



送り盆(上柚野)

盆の火祭り

盆には火を焚く行事(火祭り)が多い。迎え火を焚いて精霊を迎え、火を焚いて送る。盆灯籠を飾り、新盆家は白提灯を下げる。富士川流域では投げ松明やカワカンジョウなど独特の火祭りが行われる。盆の火祭りは、各家(イエ)で行うだけでなく、集落(ムラ)としても大規模に行う。

火は、神霊を招く目印やその依り代とされ、またケガレを焼き払うものとされる。投げ松明や新盆家の白提灯は、高い場所で火を灯すことで神霊(祖霊)を招く意味があると考えられる。また、カワカンジョウや投げ松明は、ムラに災いをもたらす存在とされた横死者(水難者)を送る(祓う)ためにムラとして行う特別な火祭りだと考えられる。



カワカンジョウに火をつけて流す
(内房 尾崎)

盆のにぎわい

各家では帰省客や訪問客を迎え、ムラでは盆踊りや川供養に人が集まるなど、盆には人々が集まることが多い。かつては女の子が集まり屋外にかまどを作って料理をして食べる「盆がま」や、嫁いだ娘が「盆粉」(小麦粉)を手土産に帰省するので親がうどんを打ってごちそうする「盆ヨビ(イキボン)」が盛んに行われた。また、親類や世話になった人へ挨拶に行ったり、贈り物をしたりする「盆礼」も盛んに行われた。この時期の贈答の習慣は、現在でも「お中元」として行われている。

2 イエの盆

盆棚

盆棚は、お盆の間、位牌や供物などを飾り、先祖の霊を迎えるために用意される。「精霊棚」や「霊棚」ともいわれる。盆棚作りは13日に行われる。幕末期、大宮町の造酒屋主人が記した『袖日記』には、7月13日に「霊棚(魂棚)」を作り、花を供える様子が記されている。

市内では仏壇の前に設える。盆棚には精霊の乗り物として胡瓜の馬や茄子の牛を作って飾り、盆花や畑で採れた作物を供える。寺院でもらい受けた掛軸を飾る家もある。盆棚は、4本の竹を脚としその上に割竹を並べたものを作る。また、2本の竹を柱にして横木(または紐)を渡したものを飾る家もある。柱の途中に穴をあけて盆花(オミナヘシ)を生け、横木にとうもろこしや人参等畑で採れたものや稲穂、青柿、栗などを掛ける。下には机等を置いて南瓜やさつま芋等を並べる。



盆棚(栗倉)

迎え火・送り火

迎え盆(13日)と送り盆(15日又は16日)に迎え火・送り火を焚く習俗は全国的に行われ、オガラ(皮をはいだ麻の茎)やワラなど地域によって様々なものが用いられる。市内ではタイマツ(細い薪)を焚く。江戸時代の地誌「駿国雑誌」には、駿府の送り火の様子として「真木一束を積み火を放ちて焚く」とあり、古くから薪が用いられてきたと考えられる。

迎え火・送り火は、精霊が迷わないように道行を照らす明かりになる、帰る家の目印になるとされる。盆提灯やヒャクハッタイ、投げ松明、振り松明も同様の意味合いを持つものとされる。かつて北山地区で行われていた振り松明は、「精霊が迷わないように」迎え盆から送り盆の間毎晩、火のついた麦カラの束を振り回して集落を回ったという。投げ松明も「精霊が迷わないように」毎晩行われていたというが、現在は送り盆の夜にのみ行われている。



燃える投げ松明(長貴 上長貴)

新盆

亡くなって初めての盆を「新盆」と言い(地域では異なるが、この地域では一年間)、祀る死者を「新仏」・「新精霊」などと言う。新盆には、盆提灯や普段より立派な盆棚など特別な祭具が用意される。これは、新仏はまだ「ご先祖様」(祖霊)になりきれていない存在であり、無縁仏のように荒々しい(「新」=「荒」)存在なので特に丁重にまつる必要があるためとされる。

カワカンジョウもまた新仏をまつるためのものだと考えられる。内房 尾崎のカワカンジョウは新盆家の盆提灯を飾って完成し、富士市天間では新仏の数だけカワカンジョウが作られた。カワカンジョウは、水難者(=無縁仏)とともに新仏を送る祭具だといえる。



新盆家の提灯を飾ったカワカンジョウ
(内房 尾崎)

3 ムラの盆

投げ松明

富士川流域では、柱の先に漏斗状の物を付け、火の点いた松明等を投げ入れて点火する「投げ松明」が行われる。県内では、大井川流域や中部の沿岸部で「アゲドウロウ」や「トーロン」として同様の行事が行われている。また、近畿や九州などでも類似の行事が見られる。

富士川流域の投げ松明は、水難者供養の川供養として行われる。この火は精霊の道先を照らす明かりとされ、かつては盆の間毎晩行われた。また、かつては子供たちが中心となって投げ松明の作成から実施までを行った場所も多い。「駿国雑誌」には沼久保村(現市内沼久保)の投げ松明の様子が記されており、江戸時代後期には投げ松明が行われていたことが分かる。



投げ松明(富士市木島)

ヒャクハツタイ

盆の迎え火や送り火として108個の火を燃やす習俗は日本各地で見られる。富士川流域では水難者供養の川供養として行われ、「ヒャクハツタイ」(タイは松明の意)と呼ばれる。現在は空き缶に入れた灯油や提灯などに火を灯す集落が多いが、山梨県南部町では雑木や身延山から貰い受けた卒塔婆を大きな山に積み上げて大規模な火を焚いている。

江戸時代の地誌「駿国雑誌」には、沼久保の「百八の供養」が記されている。これは、富士川の水難者供養のため、河原に108本の杭を打って白い提灯を掛け、その元で男性が歌い踊るものだという。現在、沼久保では川供養(夏祭り)の会場に白い灯籠を吊るし火を灯している。



ヒャクハツタイ(沼久保)

カワカンジョウ

富士川流域では、竹と麦カラで作った作り物「カワカンジョウ」・「カワガンジー」(川灌頂の意か)に火をつけて川に流すことが行われている。これは精霊送りの精霊舟の一種と考えられる。精霊舟を川や海に流す習俗は各地に見られ、狩野川流域などでも類似の行事が行われている。

富士川流域では水難者供養の川供養として行われる。「駿国雑誌」には、水難者供養の「川灌頂」が記されており、江戸時代後期には行われていたことがわかる。カワカンジョウは、竹を田型に組んで麦カラを巻き、上に松明を立てた形が多い。送り盆の夜、これに火をつけて川に流すのだが、かつては燃えるカワカンジョウに乗ったり、付いて泳いだりして下流まで送ったという。また、上流から幾つものカワカンジョウが燃えながらゆらゆらと流れて来たという。また、カワカンジョウとともにサンダワラを流す集落もあった。これはサンダワラ(俵のふた)に供物を乗せて流すもので、施餓鬼供養の意味がある。



流されるカワカンジョウ
(富士市北松野 大北)

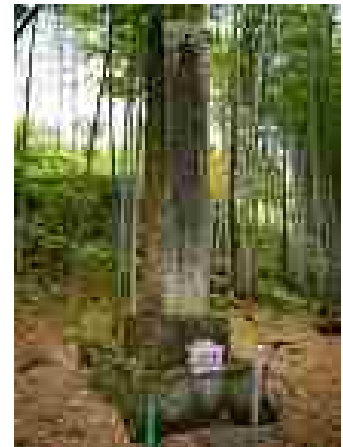
富士川流域盆行事一覧

地域名	投	力	サ	特記	地域名	投	力	サ
富士宮市内野		▲			身延町相又	○		
〃 大久保		▲	■		〃 清子	○		
〃 上稲子	○				〃 大島	○		
〃 長貫上長貫	●	△			南部町	●		
〃 〃 川合	○	△	□	投げ松明：昔は橋場・川合・楠金・砂原合同。カワカンジョウ・サンダワラ：S 30 代半ばまで。現在は妙興寺で会式	〃 佐野	○		□
〃 〃 橋場	○	▲	□	投：昔は橋場・川合・楠金・砂原合同	〃 内船	○		□
〃 〃 楠金	○			〃	〃 寄畑	○		
〃 羽鮒砂原	○			〃	〃 井出	○		
〃 〃 古田		▲	■	戦前は各集落→S 30 代半ばからカワカンジョウを下羽鮒区で実施	〃 十島	●		
〃 〃 月代		▲	■		〃 中野	○		
〃 〃 朧島		▲	■		〃 本郷	○		
〃 内房橋上	○	△		投げ松明・カワカンジョウ：S 40 代半ばまで	〃 南部	○		
〃 〃 尾崎	●	▲		投：S 57 復活	〃 成島	○		□
〃 〃 相沼	○			S 30 頃まで	〃 楮根	○		
〃 〃 落合	○			S 30 頃まで	〃 富士	○		
〃 〃 仲	○				〃 西行	○	△	
〃 〃 廻沢	○				富士市北松野大北	○	▲	
〃 沼久保	●	△			〃 南松野足ヶ久保	○		
凡例) 投げ松明	○	かつて実施	●	H25 現在実施	〃 木島室野	○		
カワカンジョウ	△	〃	▲	〃	〃 木島	●		
サンダワラ	□	〃	■	〃	〃 松岡水神	○		
					〃 岩淵坂下	○		
					〃 天間		△	

富士川と水難

かつて富士川は多くの川舟が行き交い、人や物を運ぶ流通の大動脈であった。しかし水量が多く流れが速いうえに難所も数多くあったため、水難事故が多発した。難所のひとつであった釜口峡には、江戸時代、水難者供養のために水神山本立寺が建てられた。また、釜口峡周辺をはじめとする流域には、今も水難者の供養碑や墓が残されている。

「駿国雑誌」には、水難者供養のための「川施餓鬼(川灌頂)」として、盆の間、沼久保村でカワカンジョウやヒャクハツタイが行われていたとある。流域の村々には、かつては水難者が流れ着くことも多く、村としてその供養を行ったものと考えられる。富士川流域の集落では、現在も川供養としてカワカンジョウや投げ松明が行われている。



水難供養碑(釜口峡)

盆行事展

期 間：平成26年7月12日～平成26年11月9日

場 所：富士宮市立郷土資料館（富士宮市宮町14-2 市民文化会館1階）

問合せ先：富士宮市教育委員会 文化課（埋蔵文化財センター）

TEL)0544-65-5151 FAX)0544-65-2933

「江戸時代の上野」展

平成26年、富士宮市教育委員会は『旧上野村役場文書』を刊行しました。これは、旧上野村役場に伝来した上条村・下条村・精進川村・馬見塚村の古文書資料を紹介するものです。これら古文書資料からは、地域の歴史や人々の暮らしが伝わってきます。ここでは、旧上野村役場文書を通して、江戸時代の上野地域の様子を紹介します。

1 上野村

上野の村々のすがた

近世、富士地域は旗本領（旗本^{さいいち}采地・知行所）と幕府直轄地（天領^{てんりょう}・御料^{ごりょう}）、寺社領が混在しており、相給（1村を複数の領主で治める）や領主の交替も多く、複雑な支配形態にあった。

上野では、下条村は近世を通じて旗本松平氏の支配だったと考えられるが、残る3村は途中で領主が交替した。上条村は甲府藩から代官所・旗本渡辺氏・松平氏の支配となり、幕末期には渡辺氏・松平氏・永田氏が治めていた。馬見塚村は天領から寛政年間（1789～1801）には旗本岡部氏知行へ、精進川村は天領から天保一四年（1843）に旗本本郷氏・沼津藩主水野出羽守支配に変わった。また、この他に村内に寺領がある村もあった。

幕末期の各村の石高・領主

村 名	石 高	領 主
上条村	688.285 石	松平新七郎・渡辺伴三郎・永田勝左衛門・大石寺
下条村	687.399 石	松平采女
精進川村	586.990 石	本郷丹後守・水野出羽守
馬見塚村	138.294 石	岡部龍之介

参考)『静岡県史』資料編9「天保郷帳」、『富士郡誌』

旧上野村位置図



「富士宮市管内図」より作成

2 村と用水

用水と上野

上野は芝川と潤井川に挟まれた台地上にあるため水の便が悪く、農作業や生活のための水は用水路で引いてくる必要があった。潤井川は上野周辺ではまだ水量が少ないため、大堰用水（大堰川）をはじめとする上野の用水は全て水量豊富な芝川から水を取っている。

「大堰用水絵図」からは、大堰用水から数多くの用水路が枝分かれし、広く村内を潤している様子が分かる。人々は水のない土地に用水路を開いて田んぼを広げ、時間をかけて豊かな土地に変えていった。

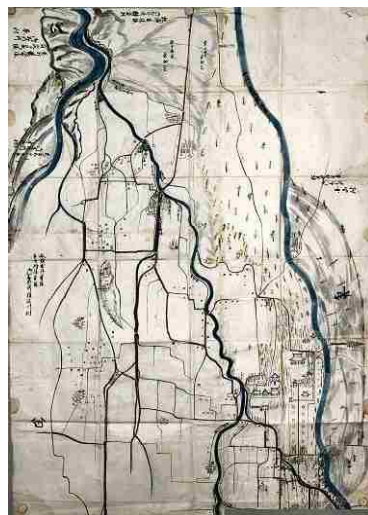
新堀用水

『上野村誌』によると、新堀用水の開削には、文政年間(1818～1830)に上柚野村名主平蔵・下条村百姓伴七が開いたという説と、天保の飢饉を受けて精進川村名主兵左衛門が開いたという説の2説があるという。旧上野村役場文書からは、平蔵・伴七が精進川村字原地の畑田成(畑の水田化)を目的に計画し、文政二年(1819)に工事を開始したと考えられる。また、後には精進川村も計画に加わり、天保年間(1830～1844)にも工事が続けられていた。

新堀用水は、現在、雌橋下で芝川から取水し、原地や西之原(下条)の田んぼを潤している。



新堀用水と原地の田んぼ



大堀用水絵図

すけごう 3 助郷役

助郷の村

江戸時代、街道の宿場には、荷物や人を輸送するための人足・馬が用意されていた。宿場に配備された分では足りない際には、助郷に指定された村々も人馬を提供した。宿場から遠い村では、実際に人馬を出す代わりに、必要な人馬を雇うための金銭を支払った。

しかし、人馬の提供は労働力が奪われることであり、金銭の支払いも出費がかさみ、村々を苦しめた。そのため、各地でしばしば助郷役の軽減・免除が訴えられた。東海道蒲原宿の加助郷に指定されていた上野の村々も、繰り返し負担の免除・軽減を訴えた。

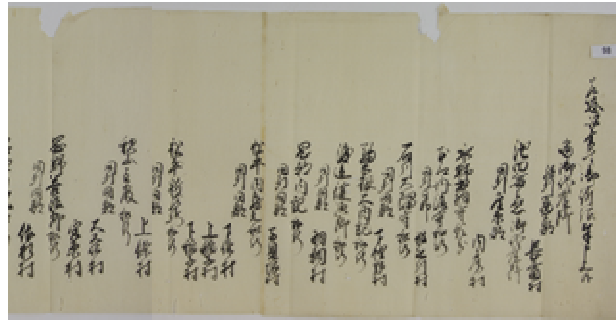
精進川村の助郷役関係年表

年(西暦)	内 容
宝暦10年(1760)	公家の通行に際し、精進川村・上条村等39ヶ村、蒲原宿加助郷に指定される。
安永 2年(1773)	精進川村等17ヶ村、村の疲弊を理由に助郷役免除を求める。
天明 4年(1784)	精進川村、助郷役免除を願う。
〃 8年(1788)	精進川村、助郷役免除を願う。負担額の減額(勤高＝村高8割)が許される。
天保 7年(1836)	精進川村等16ヶ村に吉原宿代伝馬役が課される。(弘化3年:1846まで)
〃 14年(1843)	精進川村等の蒲原宿加助郷20ヶ村、蒲原宿宿役人の不正を提訴する。(閏9月) 蒲原宿加助郷20ヶ村と蒲原宿宿役人、内済(和解)する。(10月) 蒲原宿加助郷20ヶ村、再び蒲原宿宿役人の不正を訴える。(10月)
弘化 4年(1847)	精進川村、蒲原宿増助郷に指名される。
〃 5年(1848)	精進川村、蒲原宿増助郷の指定回避を願う。

G1～G3・G5～G10より作成



蒲原宿(現在の様子)



助郷争論の訴状(G6「乍恐以書付御訴訟奉申上候」部分)

4 村と危機

天保年間の富士地域

天保年間(1830～1844)は全国的に天候不順・不作が続き、特に天保四～七年(1833～1836)には「天保の飢饉」が発生した。また、天保七年には「下田の打ちこわし」や「郡内騒動」が起きるなど世情不安が深刻化した。

この地域も食糧不足や物価高騰などが起き、天保四年には精進川村が貯穀(非常用備蓄食糧)の放出と金銭の借用を願い出、天保七年には富士郡43ヶ村が協議して穀類の津留(輸出禁止)を行った。村の自力と領主の救済で危機を凌ごうとするものの状況は深刻化し、とうとう天保八年(1837)三月、困窮した村人が徒党を組んで大宮町に押し寄せる事件が起きた。

天保年間の物価(金1両で買える米の量)

年	米	特 記
天保4年	5斗	
" 5年	8斗	
" 6年	7斗	
" 7年	3斗2升	8月の価格、9月売買なし
" 8年	2斗2升	2月の価格

上井出区有文書「朱印状写由緒書」より作成

大宮騒動

天保八年(1837)三月一日深夜、北山村・山宮村などの困窮した村人が徒党を組んで大宮町に押し寄せる事件が起きた。暮六ツ(午後6時頃)、北山本門寺五重塔に集合した村人たちは、松明を手に進み出し、途中参加者を増やしながら九ツ(深夜12時頃)大宮町付近に至った。そして浅間神社社人・大宮町町役人らに窮状と救済を訴え、粥の炊き出しを受けた後、夜明けに引き上げた。

騒動には年齢・性別・居住村も様々な多数の参加者があった。地域の広い範囲で状況が深刻化し、騒動に至ったものと考えられる。また、騒動自体は素早く解決したものの、支配形態が複雑な地域で発生した大宮騒動は、領主の枠を超えた対策の必要性をあらためて認識させたと考えられる。



琴平神社(朝日町)「山ノ神の森」付近



立宿付近(現在の様子)

大宮騒動の流れ

年 月 日	内 容
天保7年 12月27日	大宮町の八兵衛・九兵衛、近隣での一揆のうわさについて会話する。八兵衛、一揆勢が大宮町に来た場合は自分が仲裁しようと発言する。
天保8年 2月28日	九兵衛、北山村の多十郎を訪れ、一揆を提案する。多十郎、山宮村の勇吉に相談し、一揆の決行を決める。
3月 1日	午後6時頃、多十郎ら、北山本門寺五重塔に集合し、一揆を開始する。途中参加者を(時には強制的に)増やししながら大宮町へと下る。 夜9時頃、八兵衛、一揆の発生を知り、町役人に連絡し、現場に向かう。 深夜 12 時頃、一揆勢、大宮町町境の「山之神之森」付近に至る。多十郎、富知神社付近で浅間神社社人らに対峙し、窮状を訴える。社人ら、立宿の鈴木藤右衛門方で粥の炊き出し・筵の配布を行い、多十郎から参加者名簿を提出させる。
3月 2日	夜明け、一揆勢が解散する。
3月 3日	浅間神社社人、葦山代官所手代に注進書を提出する。
3月 5日	北山村役人、多十郎の取調べを行う。
3月 6日	八兵衛、腰縄・大宮町預かりとなり、取調べを受ける。
3月18日	九兵衛、拘留中(11 日)に持病を発症し、死亡する。
3月29日	代官・関係各村領主連名で、関係者の供述書・取調書を作成する。
4月	代官、関係者が御料・私領に亘るため奉行所の吟味を願う。
8月まで	首謀者(多十郎・勇吉)の処分が決定し、落着する。

「大宮騒動差出伺書」(江川家文庫「公事方御用留」天保8年)より作成

大宮騒動の舞台



「富士宮市全図」より作成

江戸時代の上野展

期 間：平成26年11月22日～平成27年2月28日

場 所：富士宮市立郷土資料館（富士宮市宮町14-2 市民文化会館1階）

問合せ先：富士宮市教育委員会 文化課（埋蔵文化財センター）

TEL)0544-65-5151 FAX)0544-65-2933

3. 本成寺

寺伝によると、鎌倉時代、ここは真言宗の「胎鏡寺」という寺であり、東林坊と仏像坊という兄弟が住職をしていたが、日蓮に説き伏せられて弟子となった。そこで寺は改宗して「長遠山久成寺」となり、後に「長遠山本成寺」となったという。

また、ここは身延山に向かう身延道の道筋のひとつにあたり、寺院裏手の白鳥山の入口には道標を兼ねた題目塔がある。

○願満祖師像

寺には、願満祖師像（日蓮像）が伝わっている。高さ約 32 センチメートルの坐像であり、衣服を彫刻した上に布製の法衣と袈裟を着せ掛けている。布製の衣服は、毎年六月一日と十月一日に着せ替えるという。

【白鳥山】

白鳥山は、標高 567 メートルあり、静岡県と山梨県との県境にあたる。山麓には古くから両国を結ぶ道が通り、山頂からは富士川流域を臨むことのできる要地であった。そのため、戦国時代には山城が築かれ、武田信玄の駿河侵攻の際にはのろし台として使用されたといわれている。

また、白鳥山周辺の集落では小正月にどんど焼きをしない場所が多い。その理由として白鳥山と関連する話が伝えられている。これは、のろしと見間違える可能性があるどんど焼きを禁止するために伝えられたとも考えられる。

白鳥山とどんど焼きの話

(1) 白坊主とどんど焼き

昔どんど焼きをしていたところ、白鳥山から白い坊主が手招きして村人を呼んだ。そういうことが続いたので、気味が悪くなり、どんど焼きをしなくなったという。

(2) 白鳥山の白い鳥とどんど焼き

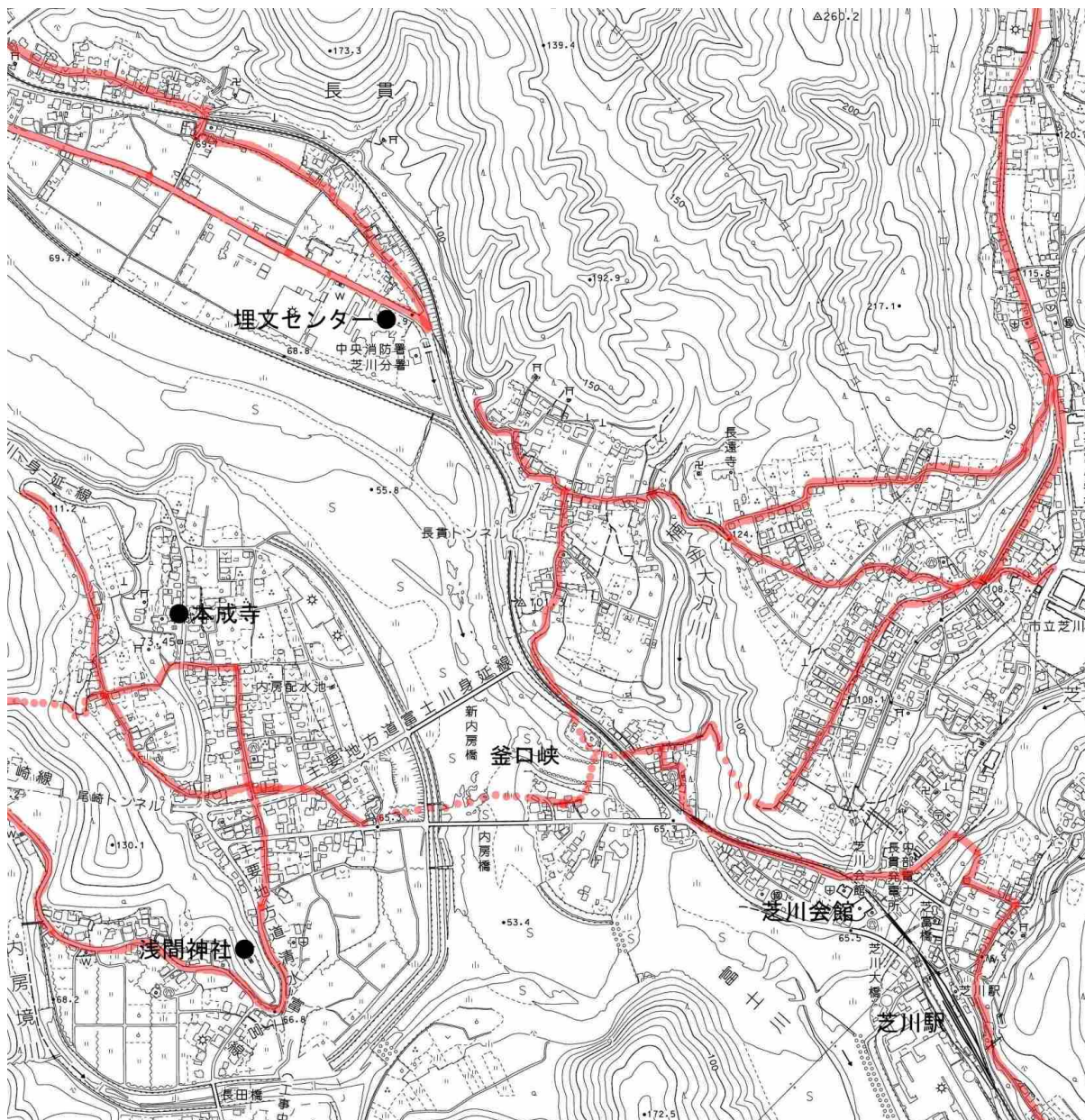
昔大きな白い鳥が白鳥山に飛んで来た。村人がどんど焼きをしていたところ、この鳥が村人の方を向いて大きく羽ばたきをした。村人は、白い鳥がどんど焼きをしてはいけないと言っているのかと思い、それからどんど焼きをしなくなったという。

4. 相沼浅間神社（浅間神社八幡宮）

白鳥山から続く丘陵の南東端に位置する。大宮の浅間神社（現富士山本宮浅間大社）に縁のある神社とされ、境内からは富士山を望むことができる。旧芝川町地域唯一の浅間神社である。

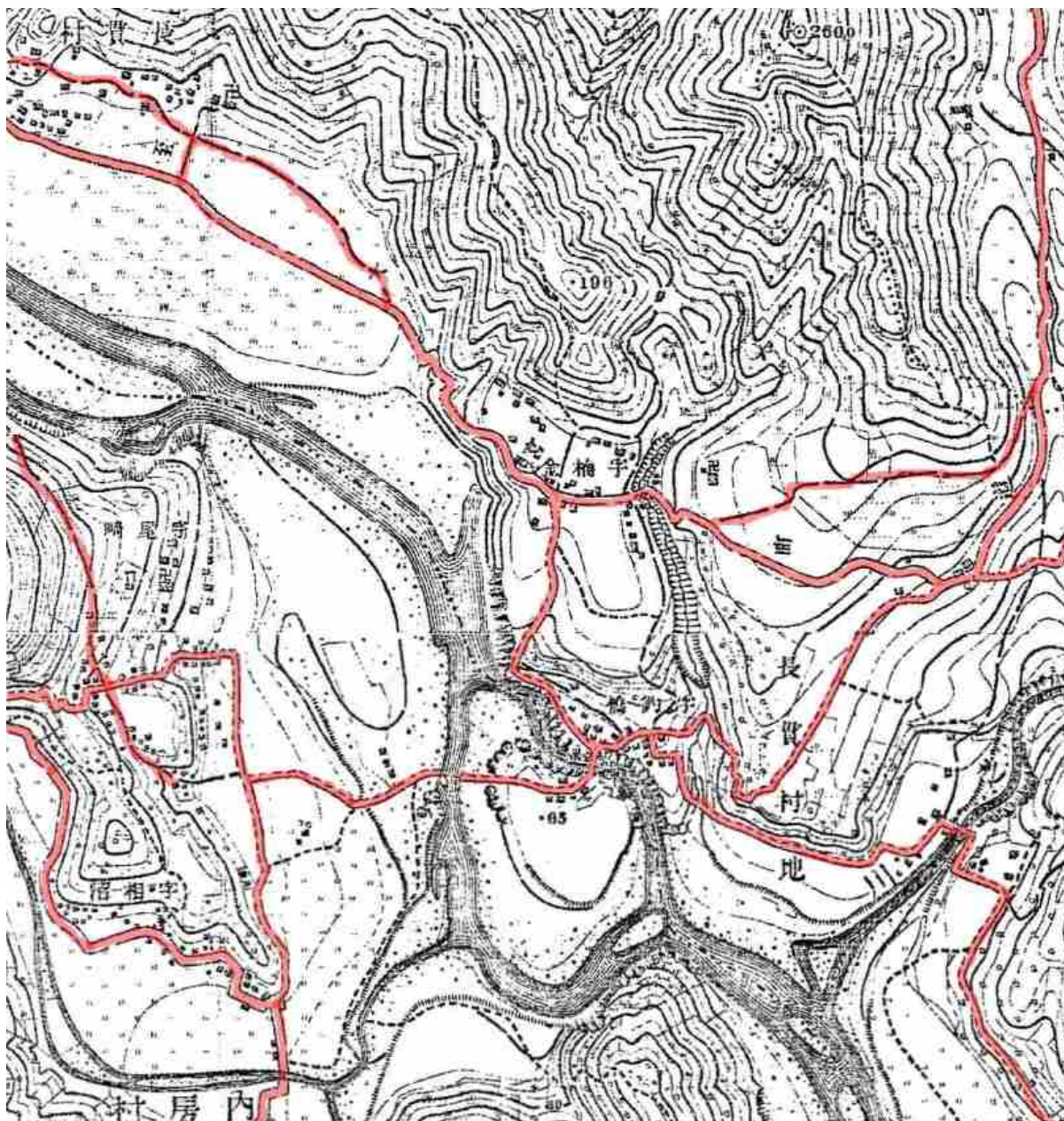
また、穴山武田氏に縁のある神社ともいわれ、勝千代丸に関連する棟札が伝えられている。神社の位置する高台は、その立地・地形などから戦国時代の山城「白鳥山城」との関連を指摘する意見もある。

本殿には、室町時代末～江戸時代前半の作と推定される神像 2 体が祀られている。袈裟を着た僧形の男神像は八幡神、裳を履いた女神像は浅間神とされる。境内には、江戸時代の年号が刻まれた石灯籠や庚申塔などがある。



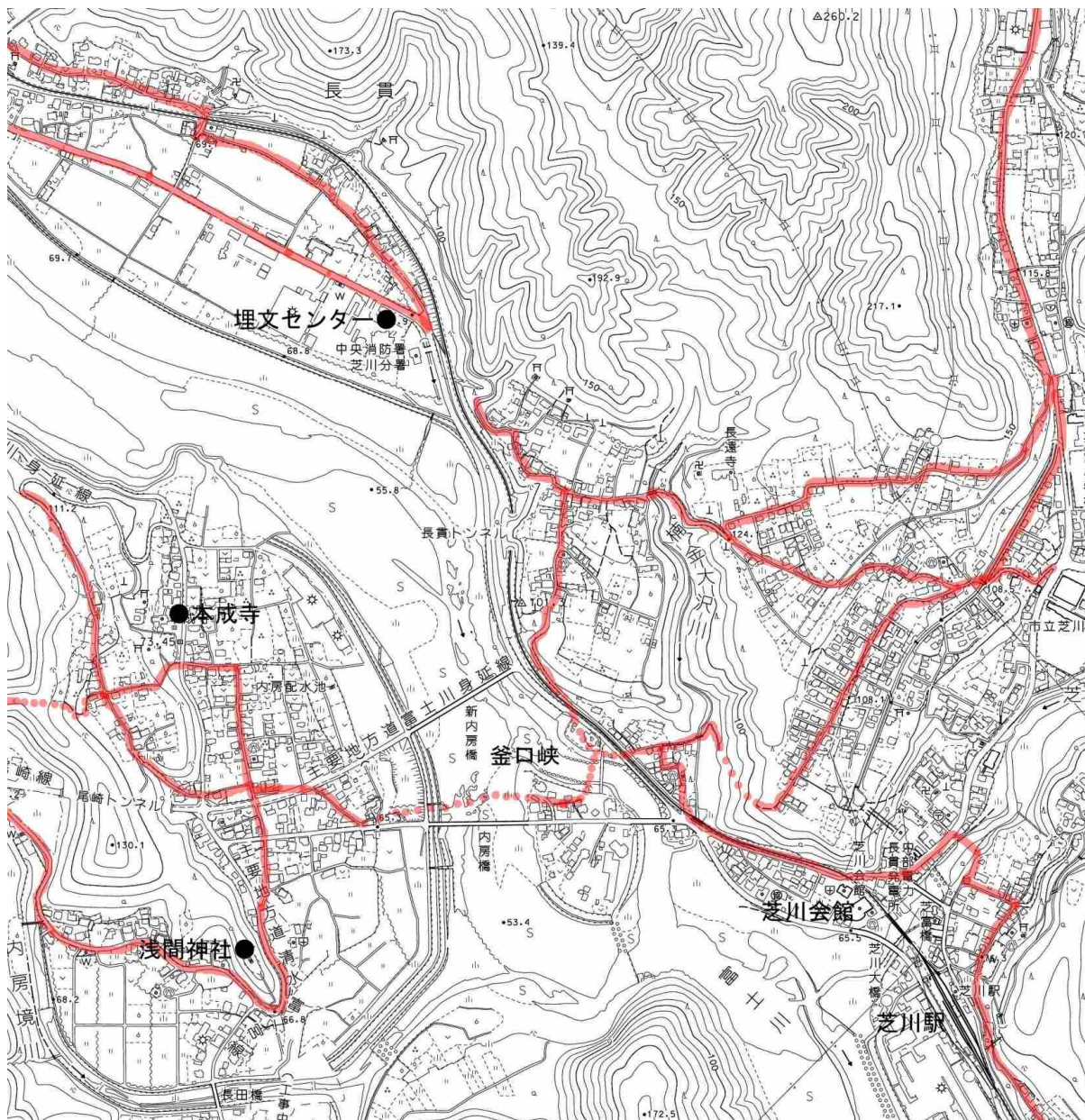
現在の地図 （赤線は明治 20 年頃の主要道路推定位置）

- ・身延線は大正 4 年 2 月に大宮—芝川間、大正 7 年 8 月に芝川—十島間の運転が開始された。
- ・芝川に架けられている川合橋が、現在地に架け替えられたのは昭和 10 年である。
- ・その下流の芝川大橋(芝川バイパス)が開通したのは昭和 45 年である。
- ・釜口橋は大正 4 年に現在の橋の上流側に鉄線板張りの吊り橋が架けられた。
- ・大正 7 年に陸軍歩兵連隊の行軍の際に落橋した。鉄製永久橋になったのは、昭和 26 年。
- ・上流の新内房橋は、昭和 54 年に開通した。尾崎トンネルの開通は平成 5 年である。
- ・この地域は、富士川に堺川や稲瀬川が合流するところで、増水時には水位が上昇する危険地帯であったため、護岸の嵩上げをして集落を守っている。



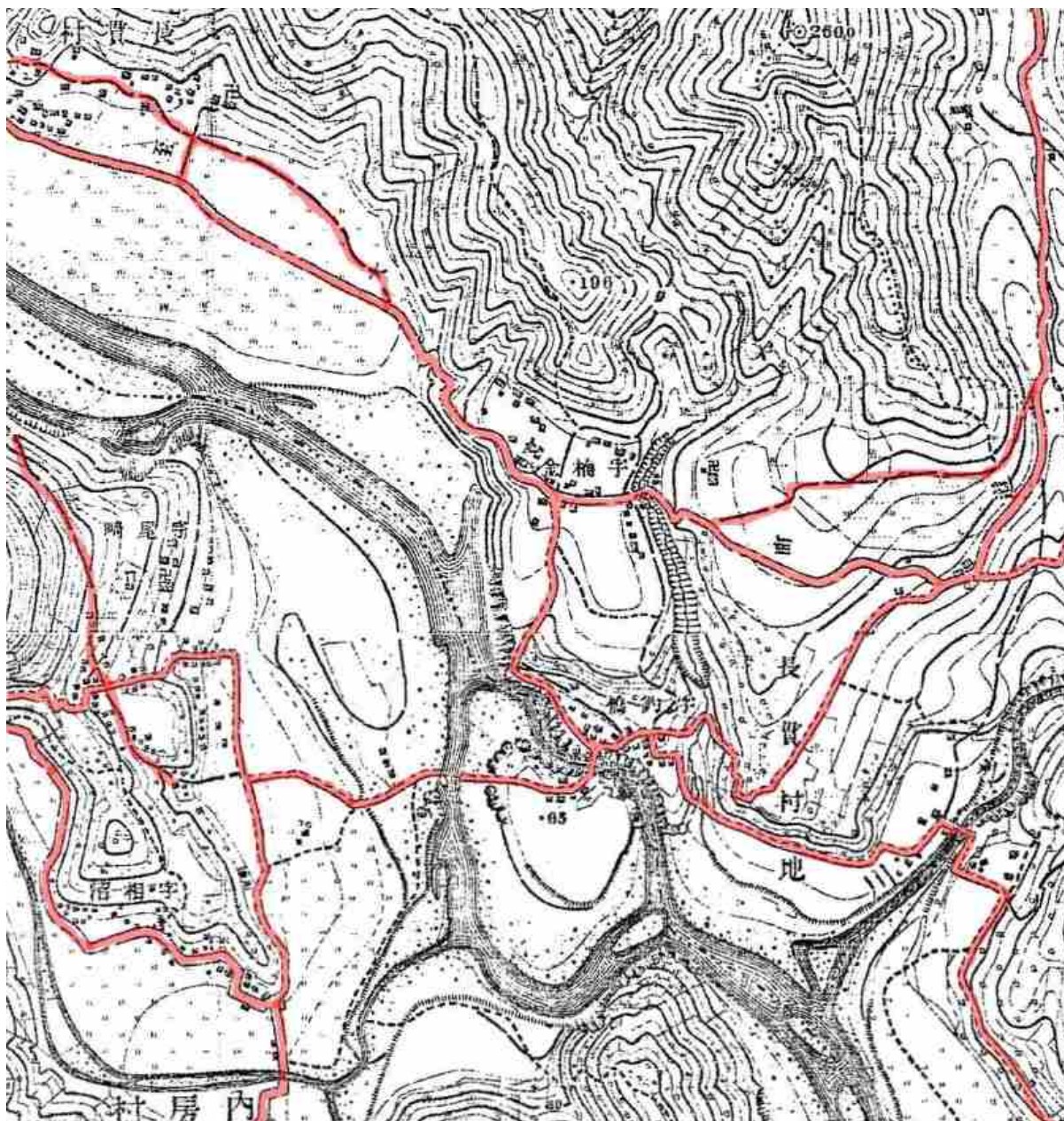
明治 20 年頃の地図 赤線は主要道路

- ・沼久保から来る道筋（身延道）の芝川には橋が架けられているが、江戸時代には操船渡が使われていた。
- ・橋場と瀬戸島間には、慶長 13 年 (1608) に徳川家康の命により吊り橋が架けられた。
- ・吊り橋の位置は、日本軽金属のサイフンのあるあたりにあったと伝えられている。
- ・瀬戸島と尾崎の間は、橋が架けられていない。渡船が使われていた。
- ・身延道は、峯の集落から白鳥山の裾を越えて塩出に出る。
- ・途中には「身延道」と刻まれた題目塔や三面の馬頭観音が祀られている。
- ・富士川の河原が広く、増水時の被害が多かったことがわかる。



現在の地図 （赤線は明治 20 年頃の主要道路推定位置）

- ・身延線は大正 4 年 2 月に大宮—芝川間、大正 7 年 8 月に芝川—十島間の運転が開始された。
- ・芝川に架けられている川合橋が、現在地に架け替えられたのは昭和 10 年である。
- ・その下流の芝川大橋(芝川バイパス)が開通したのは昭和 45 年である。
- ・釜口橋は大正 4 年に現在の橋の上流側に鉄線板張りの吊り橋が架けられた。
- ・大正 7 年に陸軍歩兵連隊の行軍の際に落橋した。鉄製永久橋になったのは、昭和 26 年。
- ・上流の新内房橋は、昭和 54 年に開通した。尾崎トンネルの開通は平成 5 年である。
- ・この地域は、富士川に堺川や稲瀬川が合流するところで、増水時には水位が上昇する危険地帯であったため、護岸の嵩上げをして集落を守っている。



明治 20 年頃の地図 赤線は主要道路

- ・沼久保から来る道筋（身延道）の芝川には橋が架けられているが、江戸時代には操船渡が使われていた。
- ・橋場と瀬戸島間には、慶長 13 年 (1608) に徳川家康の命により吊り橋が架けられた。
- ・吊り橋の位置は、日本軽金属のサイフンのあるあたりにあったと伝えられている。
- ・瀬戸島と尾崎の間は、橋が架けられていない。渡船が使われていた。
- ・身延道は、峯の集落から白鳥山の裾を越えて塩出に出る。
- ・途中には「身延道」と刻まれた題目塔や三面の馬頭観音が祀られている。
- ・富士川の河原が広く、増水時の被害が多かったことがわかる。

資料Ⅷ 各委員会等委員名簿

(1) 富士宮市文化財保護審議会委員及び富士宮市立郷土資料館運営協議会委員

任 期 平成 25 年 9 月 1 日から平成 27 年 8 月 31 日まで

根拠法令等 富士宮市文化財保護条例第 45 条第 2 項

富士宮市立郷土資料館条例第 6 条第 3 項

	氏 名	分 野
会 長	植松 章八	考古・史跡
副会長	北垣 俊明	天然記念物（地質・鉱物）
委 員	芦澤 幹雄	地域史
委 員	小川 只道	重要文化財管理（大石寺）
委 員	川名 義博	重要文化財管理（北山本門寺）
委 員	高橋 晶子	工芸品（彫刻）
委 員	建部 恭宜	建造物
委 員	中村 徳彦	重要文化財管理（富士山本宮浅間大社）
委 員	松田 香代子	民俗・無形民俗文化財
委 員	山口 裕嗣	重要文化財管理（西山本門寺）
委 員	渡井 正二	民俗・古文書
委 員	渡邊 定元	天然記念物（植物）

(2) 史跡富士山整備委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	坂詰 秀一	立正大学名誉教授・元学長	考古学
副委員長	田中 哲雄	元東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授 姫路市日本城郭研究センター名誉館長	造園学 遺跡整備
委 員	建部 恭宜	静岡県文化財保護審議会会長 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員 富士宮市文化財保護審議会委員	建築学
委 員	谷川 章雄	早稲田大学人間科学学術院長	考古学
委 員	中村 羊一郎	静岡産業大学総合研究所客員研究員 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	民俗学
委 員	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会委員 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	近世史 民俗学

(3) 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	土 隆一	静岡大学名誉教授 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	地質学 地下水
副委員長	渡邊 定元	元東京大学教授 φ森林環境研究所長	生態 環境
委 員	天野 光一	日本大学理工学部教授	景観工学
委 員	池邊 このみ	千葉大学大学院教授	景観論 環境計画
委 員	佐野 貴司	国立科学博物館研究主幹	地質学 岩石・鉱物・鉱床学
委 員	関 文夫	日本大学理工学部教授	土木工学
委 員	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会会長 富士宮市世界遺産関連学術調査指導員	近世史 民俗学

(4) 史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	向坂 鋼二	前静岡県考古学会会長	考古学
委 員	北垣 俊明	富士宮市文化財保護審議会副会長 奇石博物館副館長	地質学
委 員	小林 謙一	中央大学文学部教授	考古学
委 員	篠原 和大	静岡大学人文社会科学部教授	考古学
委 員	深澤 邦治	前大鹿窪区区長	地域代表

※平成 27 年 3 月 31 日現在

※委員は五十音順

資料ix 富士宮市内指定文化財等一覧

富士宮市内指定文化財一覧 〈平成 27 年 3 月 31 日現在〉

国指定文化財（21 件）

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
重要文化財・建造物	富士山本宮浅間神社本殿	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	明 40. 5. 27
〃 ・ 〃	大石寺五重塔	上条 2057	大石寺	昭 41. 6. 11
〃 ・ 絵 画	絹本着色富士曼荼羅図	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 52. 6. 11
〃 ・ 工芸品	太刀（銘南无薬師瑠璃光如来/備前国長船住景光）	〃	〃	明 45. 2. 8
〃 ・ 〃	脇差（銘奉富士本宮源式部丞信国/一期一腰応永廿四年二月日）	〃	〃	〃
〃 ・ 〃	太刀（銘吉用）	上条 2057	大石寺	大 12. 3. 28
〃 ・ 書跡典籍	法華経（常子内親王筆）	西山 671	西山本門寺	昭 24. 2. 18
〃 ・ 〃	紺紙金字法華経（開結共）	〃	〃	〃
〃 ・ 〃	貞観政要巻第一（日蓮筆）	北山 4965	北山本門寺	昭 27. 7. 19
〃 ・ 〃	細字金字法華経（藍紙）	〃	〃	昭 29. 3. 20
〃 ・ 古文書	法華證明鈔（日蓮筆）	西山 671	西山本門寺	昭 27. 7. 19
〃 ・ 〃	日蓮自筆遺文	上条 2057	大石寺	昭 42. 6. 15
〃 ・ 〃	日蓮遷化記録（日興筆）	西山 671	西山本門寺	平 5. 1. 20
特別名勝	富士山	二合目以上他	（富士宮市他）	昭 27. 11. 22
特別天然記念物	狩宿の下馬ザクラ	狩宿 98-1	井出信子（富士宮市）	昭 27. 3. 29
〃	湧玉池	宮町 1-1 他	富士山本宮浅間大社他	〃
史 跡	千居遺跡	上条 1818 他	大石寺	昭 50. 6. 26
〃	大鹿窪遺跡	大鹿窪 426-1 他	富士宮市	平 20. 3. 28
〃	富士山	八合目以上他	（富士宮市他）	平 23. 2. 7
名勝・天然記念物	白糸ノ滝	原・上井出	（富士宮市）	昭 11. 9. 3
天然記念物	万野風穴	山宮	（富士宮市）	大 11. 3. 8

県指定文化財（23 件）

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
建造物	西山本門寺本堂厨子	西山 671	西山本門寺	昭 29. 1. 30
〃	富士山本宮浅間大社社殿	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	〃
〃	大石寺御影堂	上条 2057	大石寺	昭 41. 3. 22
〃	大石寺三門	〃	〃	〃
絵 画	富士浅間曼荼羅図	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 56. 10. 23
工芸品	脇差（銘出羽大掾藤原国路）	大中里 396-2	渡辺英男	昭 37. 6. 15
〃	青磁蓮弁文大壺	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 52. 3. 18
〃	青磁浮牡丹文香炉	〃	〃	〃
〃	人形手青磁大茶碗	〃	〃	〃
〃	鉄板札紅糸威五枚胴具足	〃	〃	〃
書跡典籍	万暦本一切経	上条 2057	大石寺	昭 52. 3. 18
〃	重須本曾我物語	北山 4965	北山本門寺	昭 53. 10. 20
無形民俗文化財	富士宮囃子	宮町他	富士宮囃子保存会	平 7. 3. 20
天然記念物	村山浅間神社の大スギ	村山 1151	村山浅間神社	昭 31. 5. 24
〃	西山本門寺の大ヒイラギ	西山 671	西山本門寺	〃
〃	北山本門寺のスギ	北山 4965	北山本門寺	昭 32. 5. 12
〃	大晦日五輪のカヤ	内房 5681	望月旭	昭 40. 3. 19
〃	村山浅間神社のイチョウ	村山 1151	村山浅間神社	昭 43. 7. 2
〃	上条のサクラ	上条 923	佐野一男	〃
〃	富士山芝川溶岩の柱状節理	羽鮒 1539-2	野村藤男（富士宮市）	昭 59. 3. 23

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
天然記念物	猪之頭のミツバツツジ	猪之頭 688	高野幸孝	昭 60. 11. 29
〃	大晦日のタブノキ	内房 5681	望月旭	昭 62. 3. 20
〃	芝川のボットホール	下柚野 319 地先	（富士宮市）	平 7. 3. 20

市指定文化財（35 件）

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
建造物	平等寺の三門	東町 4-24	平等寺	昭 60. 3. 11
〃	井出家高麗門及び長屋	狩宿 91-1	富士宮市	平 7. 3. 16
〃	妙蓮寺 5 棟	下条 688	妙蓮寺	平 23. 5. 24
〃	上稲子八幡宮の厨子	上稲子 1630	八幡宮	平 25. 6. 20
〃	龍興寺の厨子	内房 3716	龍興寺	〃
〃	芭蕉天神宮本殿	内房 5820	芭蕉天神宮	〃
絵 画	天象の図	村山 1151	村山浅間神社	昭 55. 1. 11
〃	太郎坊権現の図	〃	〃	〃
〃	阿字曼陀羅	〃	〃	〃
〃	伝末代人画像	〃	〃	〃
彫 刻	大日如来坐像（胎蔵界）	村山 1151	村山浅間神社	昭 57. 8. 23
〃	大日如来坐像（金剛界）	〃	〃	〃
〃	大日如来坐像（胎蔵界）	〃	〃	〃
〃	役行者倚像	〃	〃	〃
〃	不動尊像	〃	〃	〃
〃	隨身像	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	平 5. 5. 25
工芸品	伝源義助作大薙刀	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 40. 5. 10
〃	弥陀観音勢至の軸（阿弥陀三尊雲越之来迎図）	上柚野 197-1	延命寺	平 24. 5. 24
書跡典籍	後陽成天皇宸翰	〃	〃	昭 40. 5. 10
〃	外国語（英・蘭）辞書類一括	中央町 11-2	中西信子	昭 63. 4. 15
古文書	袖日記	大宮町 7-16	横関及彦	昭 60. 3. 11
考古資料	三連甕形土器	黒田 1373-13	若林和司	昭 55. 1. 11
〃	安養寺の土偶	杉田 489	安養寺	昭 57. 8. 23
〃	駿州富士郡二股村石経塚	栗倉 1051-1	小林充	昭 63. 4. 15
無形民俗文化財	火伏念仏	内野	火伏念仏保存会	平 11. 1. 26
〃	富士山本宮浅間大社流鏑馬	宮町	富士山本宮浅間大社流鏑馬保存会	平 18. 9. 8
史 跡	大室古墳	小泉 1467-1	（上小泉八幡宮）	昭 60. 3. 11
〃	中野梅市建立の句碑	黒田 36	本光寺	〃
〃	虚空蔵社古墳	西小泉町 59-4. 5	鈴木英光	平 5. 5. 25
天然記念物	大宮縄状溶岩	元城町 32	富士宮市	昭 44. 4. 1
〃	フジキクザクラ	上条 2057	大石寺	昭 57. 8. 23
〃	中央町のカヤ（カヤの木）	中央町 11-2	中西信子	〃
〃	猫沢のカシワ	猫沢 98-2	篠原幸夫	平 26. 4. 30
〃	西山本門寺のシダレマキ	西山 671	西山本門寺	〃
〃	寛妙寺のイヌマキ	内房 2642	（橋上町内会）	〃

国登録有形文化財（1 件）

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	登録年月日
建造物	吉澤家住宅煉瓦蔵	宮町 947-1	吉澤利一	平 27. 3. 26

富士宮市文化財年報 第5号

平成28年3月22日

編集 富士宮市教育委員会

発行 富士宮市教育委員会

静岡県富士宮市弓沢町150番地

電話 (0544) 22-1111(代)

印刷 株式会社きうちいんさつ

